

道徳科学習指導案

日 時 令和3年5月28日（金）
 学 級 岩手大学教育学部附属中学校
 1年C組35名
 会 場 1C2A教室
 授業者 小原 翔太

- 1 ユニット名 よりよい人間関係をつくるためには
 教 材 名 「裏庭での出来事」【A（1）自主，自律，自由と責任】
 「学習机」【B（7）礼儀】
 「銀色のシャープペンシル」【D（22）よりよく生きる喜び】

2 ユニットについて

表1 生徒回答

(1) 生徒観

今年度の最初の道徳の授業において、よりよい生き方を考えるために、自己の生き方について「①あなたは今までどんなことを大切に生きてきましたか」「②あなたはこの1年間、何を大切に生きていきたいですか」「③あなたはこれからの人生で何を大切に生きていきたいですか」の3つの視点で大切にしてきたキーワード（内容項目）を選び、分析を行った。その回答を、4つの視点に分類すると【表1】のような結果であった。①～③において、「B 主として人との関わりに関すること」に対して興味を寄せていることが分かる。理由としては、「中学生になり人間関係が複雑になると思うから」や「先輩や先生方、地域の人にお世話になると思うから」など、中学生になることによる人間関係の変化や部活動や委員会活動における縦のつながりを意識していることが分かる。また、「A 主として自分自身に関すること」を選んでいる生徒は、「中学生に上がり、先生や親に言われてからやるのではなく、自分から行動したい」や「自分で考えて行動する場面が増えると思ったから」など、これからの中学校生活を自ら考え、進んで行動したいという前向きな考えが多く挙げられた。考えていくステージが未来に向かうと、「D 主として生命や自然、崇高なものとの関わりに関すること」の項目への興味が増えていることが分かる。これらのことから、この1年間に関わる生徒の興味関心がある項目の学習を充実させることはもちろんだが、様々な内容項目についての道徳的諸価値の理解を基に自己の生き方について多面的・多角的に考えていくことも、今年度の道徳の目的ではないかと考えた。

1学年は入学して約2か月が経ち、中学校生活へ新たな目標を見出し、頑張ろうとする生徒が多い。小学校時代の学びのうえに中学校時代の学びがあることを意識させるようにし、これまでを振り返り、「これから」を展望し、様々な仲間と語り合える道徳の学習としていきたい。全員が新しいスタートを切った今だからこそ、これまでの自分の価値観にとらわれず、新たな考え方を広げ、様々な仲間の思いを受け入れることができる生徒を育てていきたい。

(2) ユニット観

本ユニットは、「よりよい人間関係をつくるためには」というテーマについて3つの内容項目で構成した。『中学校学習指導要領解説道徳編』のA[主として自分自身に関すること]から、【(1) 自主，自律，自由と責任】「自律の精神を重んじ、自主的に考え、判断し、誠実に実行してその結果に責任をもつこと。」をユニットの最初に学習する。他者や集団との関わりの中で、一個の人間としてより良い行動を適切に判断することで誠実さにつながっていくことを扱う。誠実でなければ、よりよい人間関係は築くことができないと考え、ユニットの最初の時間に【(1) 自主，自律，自由と責任】について学習する。その次に他者との関係をつくるという観点から、B[主として人との関わりに関すること]から、【(7) 礼儀】「礼儀の意義を理解し、時と場に応じた適切な言動をとること。」について学習する。他者と人間関係を築いていく上で、礼儀は不可欠なものと考え。しかし、形だけの礼儀では真の信頼関係を築くことは

できない。礼儀作法の意義や真心を態度で表すことを扱い、礼儀に込められた気持ちが伝わることで、人間関係がつくられていくことについて考えていきたい。そして、最後には、道徳性は個に帰属するが、様々な集団や社会、他者との関わりを通して自己を見つめ、人としての在り方や生き方を育むという観点から、D〔主として生命や自然、崇高なものとの関わりに関すること〕から、【(22)よりよく生きる喜び】「人間には自らの弱さや醜さを克服する強さや気高く生きようとする心があることを理解し、人間として生きることの喜びを見いだすこと。」について学習する。自分自身だけでは自分の弱さについて自覚することは難しい。他者と関わることで、自分の弱さについて気付いたり、認めたりできると考える。よりよい人間関係が自分にとっても、他者にとっても必要なものであり、成長につながると気付かせたい。

この3つの内容項目から「よりよい人間関係の構築」について、多面的・多角的に考え、自分自身を見つめ直し、今後の実践意欲を喚起させたい。

(3) 教科研究との関わり

本校道徳科において育成したい資質・能力は、①道徳的諸価値が大切なことなどを理解し、様々な状況下において人間としてどのように対処することが望まれるか判断する力、②自己を見つめ、他者と協働し、物事を広い視野から多面的・多角的に考える力、③自己の生き方についての考えを深め、人としてよりよく生きようと探求する態度、という三つである。

その力を育むため、以下の3つの研究の視点から、人としてよりよく生きようとする生徒を育成できるよう、指導過程を工夫していきたい。

研究の視点1 カリキュラムマネジメントの工夫 ※主体的・対話的で深い学び

道徳科では、研究総論で示している「本校で育成を目指す資質・能力」を生徒に育むために、カリキュラムマネジメントの観点から、【表2】のように、年間3回ユニットを組んで、一つのテーマを数時間に渡って考えさせていく。各教科等において考えたことや体験した道徳的諸価値を人間としての在り方や生き方という視点で捉え直し、カリキュラムをデザインした。

表2 1学年のユニット構成

ユニット名	各教科・領域、行事と道徳教育との関連	重点指導内容
ユニット1 よりよい人間関係をつくるためには	HS(生活トレーニングセンター)	A(1)自主、自律、自由と責任 B(7)礼儀 D(22)よりよく生きる喜び
ユニット2 みんなで目標達成!	特別活動(文化祭)	B(6)思いやり、感謝 C(15)よりよい学校生活 集団生活の充実
ユニット3 先輩になる	附属小学校交流	A(3)向上心、個性の伸長 (4)希望と勇気克己と強い意志 (22)よりよく生きる喜び

本ユニットは、小学生から中学生になり新しい人間関係を構築する側面と総合的な学習の一環として行われる7月の生活トレーニングセンターと関連させて構成した。生活トレーニングセンターでは、自分自身を律し、仲間と活動する中で関係を築き、困難が生じた際に共に乗り越えようとする姿が問われる。そこで、仲間と過ごす上で大切にしたいことを考え、目標を達成するためには他者の存在が不可欠であると捉えさせたい。そして、道徳科の学習と総合的な学習をつなげ、教科横断的に学習を進めることで、道徳科での学びをより深いものとさせたい。トレーニングセンターの後に人間関係にポイントを置いた振り返りを行い、思考を深めさせたい。

研究の視点2 メタ認知を促す指導 ※主体的・対話的で深い学び

メタ認知を促すために、道徳科では振り返りシートの工夫を行い、生徒側からも教師側からも変容が実感できるものとした。ユニットごとにOPPシートを用いて、1枚で振り返りを蓄積する。ユニットのテーマに関しての考えをユニットの最初と最後に記入する。OPPシートとして、考えを蓄積していくことで、最後の考えを記入するときに学びが深まった状態でテーマへの考えを書くこととなる。また、1枚の振り返りシートとすることで、生徒の側から見れば、自らの成長を実感し、実践意欲の向上につなげていくものとなり、教師の側から見れば、授業改善の資料となる。

研究の視点3 思考ツールの効果的な活用 ※情報・情報技術の効果的な活用

教材を通して道徳的価値についての議論をした後に、個人で思考ツールを用いて、考えを整理していく。グループや学級で多様な考えに触れた後に思考ツールを用いて自分の考えを再度整理することで、友達の意見から多面的・多角的に考えたり、自己との関わりについて考えたりする場を設定したい。このように、生徒が道徳的な見方・考え方を働かせて考える過程に思考ツールを活用することで、深い学びを促進させるものとした。

3 ユニット計画

(1) 育成を目指す資質・能力

- ① 「よりよい人間関係をつくるためには」というテーマのもと、【自主、自律、自由と責任】、【礼儀】、【よりよく生きる喜び】などの道徳的諸価値が大切なことなどを理解し、様々な状況下において人間としてどのように対処することが望まれるか判断する力。

- ② 自己を見つめ、他者と協働し、「よりよい人間関係をつくるためには」というテーマについて、ユニットを通して広い視野から多面的・多角的に考える力。
- ③ 「よりよい人間関係をつくるためには」というテーマについてユニットを通して考えたことをもとに、自己の生き方についての考えを深め、人としてよりよく生きようと探求する態度。

(2) 指導計画及び評価計画

時	「資料」【内容項目】 ○本時のテーマ ・学習内容 ◆指導の留意点 ☆評価
1	「裏庭での出来事」【A（1）自主、自律、自由と責任】 ○「信頼関係につながるものとは」 ・ 友達の判断に流された上に、責任転嫁してしまったことに悩む主人公の姿を通して、道徳的価値について考える。 ・ 道徳的価値について考えたことを基に、これまでの自分の言動と思いについて振り返らせる。 ◆ 望ましい行動が分かっているのに、他人に流されてしまうことがあり、その結果は人間関係を悪いものにしてしまうことを考えさせる。信頼関係は、誠実に行動することから生まれるものであると考えさせる。 ☆ 自分の行動に対して無責任になってしまう弱さや、それを乗り越えて自分を律しようとする強さなどについて、議論を通して、さまざまな見方で考えようとしているか。（発言、ワークシート）
2 本 時	「学習机」【B（7）礼儀】 ○「礼儀を尽くすとは」 ・ 登場人物のやり取りの問題点を考えることを通して、道徳的価値について考える。 ・ 道徳的価値について考えたことを基に、「礼儀を尽くす」とはどういうことか考える。 ◆ 相手に対する思いや考えが、礼儀として表出するという点について気づかせる。その後、礼儀の意義について捉えさせ、これからの行動について考えさせる。 ☆ 主人公や大枝さん、客といった、様々な登場人物の立場から、礼儀が人間関係に与える影響や、礼儀の意義や裏にある思いなどについて議論を通して考えを深め、時と場に応じた言動を取ることを意味を、自分と結び付けて考えようとしているか。（発言、ワークシート）
3	「銀色のシャープペンシル」【D（22）よりよく生きる喜び】 ○「心の弱さを乗り越えさせるものとは」 ・ 主人公の心の葛藤を通して、道徳的価値について考える。 ・ 道徳的価値について考えたことを基に、自分の弱さを克服するためにどう行動していくか考える。 ◆ 人は自分の弱さについて、どのように気づき、乗り越え、克服しようとするのか考える。人は人とのつながりの中で、自分のことを考え、成長しようとするということを捉えさせたい。 ☆ 心の弱さを乗り越えることについて、登場人物の姿を通して、自分の弱さや強さを考えながら、様々な角度から考えを深めようとしているか。（発言、ワークシート）
事後	・ ユニット学習後、ユニット学習テーマ「よりよい人間関係をつくるためには」についての考えをまとめさせる。 ◆ ユニット学習を通して、改めてこれからの自分について考えたことをまとめさせる。

4 本時について

- (1) 教材名 「学習机」(中学道徳① きみがいちばんひかるとき 光村図書)

(2) ねらい

お客さまを相手にトラブルを起こした新入社員が自分の考えを改めていく姿を通して、人と関わる時に大切な礼儀の裏にある心について考えさせ、時と場に応じた行動を取ろうとする心情を育てる。

(3) あらすじ

新入社員だった頃、「私（青木）」は、注文されたものと違う型の学習机をお客さんに配達してしまった。電話にて交換すると申し出たものの、お客さんは、電話口でかなり怒っている。その怒りに対して、私も素直に反省できず、自らもいらだちを覚える。電話を切った後、ベテラン販売員の大枝さんに相談するが、「交換すればよいというものではない。」と話をされ、自分の対応の間違いに気付かされる。その言葉に、「私」は、直接お客さんのところにお詫びに行くことを決心する。同行した大枝さんが、深くおじぎをして詫言ると、あんなに怒っていたはずのお客さんは、穏やかに対応して許してくれたのだった。

(4) 授業の構想

本時は、『中学校学習指導要領解説道徳編』のB〔主として人との関わりに関すること〕から、【(7) 礼儀】「礼儀の意義を理解し、時と場に応じた適切な言動をとること。」を道徳的価値の中心に据えて展開していく。

事前に礼儀に対する考え方や必要感に関するアンケートを行い、実態を把握する。また、学習支援アプリを用いて礼儀を欠いた行動により失敗したことのある経験を募集する。

導入では、事前に集めた生徒の失敗談を匿名で公表し、共有する。人間関係において、「礼儀が必要

であることは分かっているが失敗してしまうこともある」と考えさせ、「礼儀を尽くす」ためにはどうしたらよいかを問うことで本時のテーマにつなげていく。

展開前段では、父親の怒りが何に対して向かっているのかということを考えることで、青木さんの言動に心が欠けていると捉えさせる。父親の怒りは、青木さんの配達ミスに対してではなく、その後の行動にあることを気づかせる。そして、その行動の裏には青木さんの相手に対しての気持ちが不足しているということを考えさせる。次に、怒っていた父親の態度が変化した理由について考える。学級全体で議論を深めていく中で、単に行動としての謝罪によるものではなく、その行動に関わる思いや気持ちが伝わる大切であると気付かせ、その相手に対する気持ちが礼儀の本質であると考えさせる。

展開後段では、考え・議論したことを基に、「礼儀を尽くす」ということについて、自分との関わりの中で考えさせていく。思考ツールを適宜用いて整理させることで、学びを深いものとさせたい。

終末では、授業で考えたことをもとに自分自身を振り返らせていく。これまでの自分が考えていた礼儀の捉えや仲間の考えから学んだこと、そしてこれからの自分の行動について考えることで、自分自身を見つめ直し、新たな行動へのきっかけとしたい。

(5) 本時の展開

段階	学習内容および学習活動 ・予想される生徒の反応	時間 (分)	指導上の留意点および評価の視点 ・指導上の留意点 ○評価の視点
導入	1 日常生活の中で、礼儀が欠けていて失敗したとを感じる場面について共有する。 ・挨拶ができず、注意された ・タメ口を使ってしまい怒られた ・お辞儀を注意された ・言葉遣いを注意された <u>礼儀を尽くすとは、どういうことだろう。</u>	6	・あらかじめ学習支援アプリで失敗談を募集し、生徒の日常生活からテーマに関わることについて引き出す。 ・学級の生徒の失敗談を共有し、礼儀について、学ぶ意欲を喚起させたい。
展開	2 資料から考える 資料を読んで、「青木」と「父親」の変化を確認する。 <u>父親は、何に対して怒っているのだろうか。</u> ・違う学習机を配達されたから ・謝罪の言葉がなかったから ・学習机を売ることの意味を理解していなかった ・子どもが悲しんでいるから <u>父親の態度が変わったのは、なぜだろうか。</u> ※適宜、グループ協議を行い、本質に迫っていく。 ・謝ってもらったから ・謝罪に来て、頭を下げてきたから ・大枝さんや青木さんの気持ちが伝わったから ・大枝さんや青木さんの謝罪に誠意を感じたから ※謝罪の言葉や行動が父親の態度を変えたのか、大枝さんの気持ちが父親の態度を変化させたのか、など議論する点を焦点化して、グループで協議させる。	5 15	・父親の怒りが何に向かっているのか、整理させることで、青木さんが相手に対する心を欠いていたということに気づかせる。 ・父親の態度が変わった理由が礼儀に込められた気持ちにあることを捉えさせるために、適宜補助発問をすることで、本質に迫るように工夫する。
	3 資料から考えたことをもとに考えを深める。 <u>礼儀を尽くすとは、どういうことだろう？</u> ※思考ツールを適宜用いて考えを整理する。 ・相手に対して、誠意をもって行動する。 ・相手の立場に立って、考えること。 ・相手に思いを伝えるために、どう行動するか考えること。	16	○主人公や大枝さん、客といった、様々な登場人物の立場から、礼儀が人間関係に与える影響や、礼儀の意義や裏にある思いなどについて議論を通して考えを深め、時と場に応じた言動を取ることを意味を、自分と結び付けて考えようとしているか。(発言、ワークシート)
終末	4 本時の学習を振り返る（自己を見つめる） <u>自分のこれまでの考えや経験をもとに書いてみよう。</u> ・これまで礼儀は挨拶や言葉遣い、お辞儀といった接し方だと思っていたけれど、それだけではなく、相手に気持ちを伝えるためにするものであると感じました。気持ちが伝わる礼儀を心がけていきたいと思います。 5 仲間の振り返りを聞く	8	・これまでのユニットの学びを振り返りながら今の考えを書かせる。